

平成 30 年度狂犬病予防注射の実施結果について

1 見直しの経過

- (1) 近年では、狂犬病の予防接種を動物病院で接種させる方が年々増加しており、集合注射での注射頭数が減少する傾向が続いていました。
- (2) また、集合注射会場においては、これまでから犬同士のトラブルが起こったり、ワクチン接種による突発的な副作用発生への対処が難しいことなど、事故の発生の懸念がありました。
- (3) 京都市では、飼い主による狂犬病予防接種を、より安全な動物病院での接種に移行していく方向で取組を進めていくこととし、集合注射会場の抜本的な見直しを行い、近隣会場や動物病院の立地状況を考慮したうえで、ここ数年の注射頭数が少ない会場（おおむね 50 頭以下）を削減し、平成 30 年度は 159 会場で集合注射を実施しました。

2 平成 30 年度 狂犬病予防注射の実施結果

(1) 狂犬病予防注射実施頭数及び注射実施率

	平成 29 年度	平成 30 年度	増減
実登録頭数	59,498	58,449	△1,049
新規登録頭数	3,939	3,704	△235
狂犬病予防注射頭数	39,840	39,582	△258
集合注射での実施頭数 (会場数)	8,465 (241)	7,407 (159)	△1,058 (△82)
動物病院での実施頭数	31,375	32,175	+800
注射実施率 (%)	67.0%	67.7%	—

(2) 考察

- ア 市内の犬の実登録頭数は 58,449 頭と、前年度に比べ 1,049 頭減少しています。
- イ 狂犬病予防注射頭数は 39,582 頭と、前年度に比べ 258 頭減少していますが、これは、市内登録頭数の減少が影響しているものと推察されます。
- ウ 集合注射での実施頭数は 7,407 頭と、前年度に比べ 1,058 頭減少していますが、一方、動物病院での実施頭数が 32,175 頭と、前年度に比べ 800 頭増加しています。
注射実施率が 67.7% と前年度 (67.0%) とほぼ変わらないことから、見直しを行った集合注射の利用者の多くは動物病院での接種に移行したものと考えられます。

3 今後の狂犬病予防注射

(1) 令和元年度（平成31年度）の狂犬病予防注射

ア 平成30年度と同じ集合注射会場にて集合注射を実施

集合注射での実施頭数 6,278頭（前年比 1,129頭減）

イ 動物病院での実施頭数 年度末に集計予定

(2) 令和2年度の狂犬病予防注射

安全に接種できる動物病院での注射実施に移行していく方針で、令和元年度の狂犬病予防注射の実施結果も注視しつつ、必要に応じて、集合注射会場を見直していくこととします。